

四、黨は黨の綱領を目標として結成されてゐる大衆政黨であり、其から、露本邦としては御質問の如き指導原理に關しては何等規定してありません。

五、帝國主義戰爭反對のための闘争は、御承知の如く黨大會に於いて決議された黨の重要な闘争題目となっております。其帝國主義戰爭としての滿蒙戰爭に對する反對闘争の具體的方針は御質問後指示いたしました「對支出兵反對闘争方針書」によつて御了承を得たことと存じます。然しもちろんかかる重大なる闘争を展開するにあつては、黨の闘争の基礎の上に慎重なる戦術が考慮されるべきであります。黨本部は黨支持組合の全的支持と積極的協力を深く期待する次第であります。六、労働階級はもとより、農民並に無産市民のために、我黨の任務益々重大を加えつゝある今日黨本部は選挙黨に陥る危機を嚴戒し、闘争第一主義を以つて府縣會議員選挙闘争を敢ひ抜くことに努力いたしました。今後は更に此方針の徹底、擴充のために努力する決意であります。

(一三)農民戦線の再建擴大は全國労働大衆結成の中心問題であつたが、黨は全國農民組合と協力して着々その方針に則つて運動を進めて來た。具體的の活動は農民組合對策部並に農村委員會の報告に詳細であるが、その要旨は

(イ)全農内に集積する大衆政黨破壞分子を清算して、労働大衆の線に沿つて農民戦線の再建をなすこと、所謂全農再建闘争の支持態度

(ロ)地方農民組合を全農に編入して、單一農民戦線の樹立に邁進すること
(ハ)農民組合と黨とを密着せしむると共に兩者の機能の分化を計り、農村地區に於ける政治的闘争の組織を擴充することであつた。而して第一の全農再建闘争は八月十八日の全農新潟總聯合會の大會を決勝點として一段落を告げ、略々十一月中旬までに成功を収めることが出來た。第二の地方農民組合の編入は黨大會後逐次に行はれ山梨、栃木、高知、等々の黨影響の地方農民組合は夫れ々々全農の支部または支部聯に編制された。第三の農村地區に於ける政治闘争組織の獨立は、『農村委員會』の組織案として十一月五、六日の擴大中央執行委員會を通じ、昭和六年度大會を期として具體化されることを待ちつゝある。尙農村委員會としては各地方の農民選挙に積極的に進出すべきことを指令し、各地にも相當の成績をあげた。また本年度掉尾の運動として、『農民負債十ヶ年無償闘争』に關する方針を決定し、各支部に通達して本運動を強力的に展開せんとしつゝある。

此事は過去活動報告を要する過去の活動報告に止らざらしむるが爲に、こゝに本年度活動に惹かれた黨の不備短所、缺陷に就て忘懐なく自己批判をなさんとするものである。要旨を曰く、

(イ)黨内統制の弛緩。いかに合同直後とは言へ、黨内の統制があまりにも弛緩してゐた。黨内に種々なる意見が無統制に發表され、殊に大衆政黨に自信を有せざるが如き盲動の行はれたことは甚だ遺憾とせざるを得ない。

(ロ)黨常任部の權力。黨常任部は合同直後の必然的結果として敏活なる活動と強力なる執行力を欠く憾みのあつたのは充分に反省すべきである。

(ハ)黨と支持團體との關係の不備。黨と支持團體との關係が極めてルーズであつた結果『労働クラブ』の問題の如きを惹起し、必要以上に黨内輿論の混亂をひき起した。

(ニ)黨日常闘争の不活潑。以上の欠陥は日常闘争の不活潑に表

(一四)言論機關の不備。黨機關紙が一ヶ月一回を辛うじて持續する程度であり、唯一つの理論雜誌をすら有ら得ない現狀に於ては、黨の方針を下層部まで急速に徹底せしむることが困難である。これが延いて黨内輿論の不統一を招き、黨活動を阻害してゐる最大原因である。かかる現狀が購讀者網の欠如と紙代納入の慢怠に基づくことを反省せねばならぬ。

(ト)對農結合の不完全。大衆政黨の現段階的任務は労働大衆の結合であるべきであるが、今日労働組合農民組合を第一次に支配する意識は組合第一主義であり、従つて現在の黨が労働結合の機能を充分に發揮してゐない。

(一五)かかる自己批判に應じて、黨の昭和七年度に對する具體的對策は、『黨の方針書』となりて表はれた。切に黨員大衆の自重と反省とを望む。